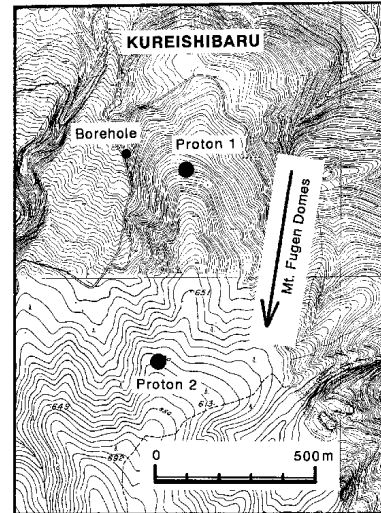
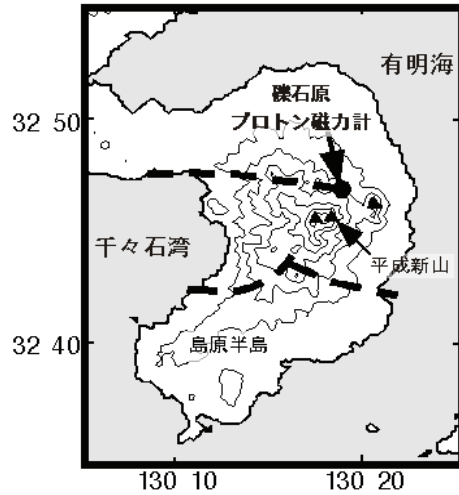
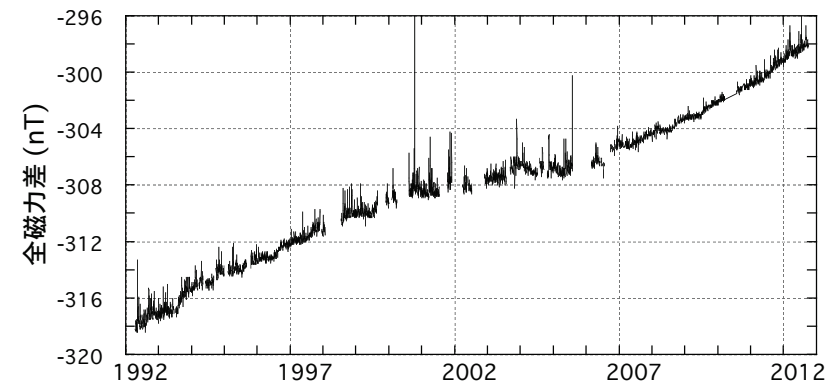


雲仙岳北麓における全磁力変化

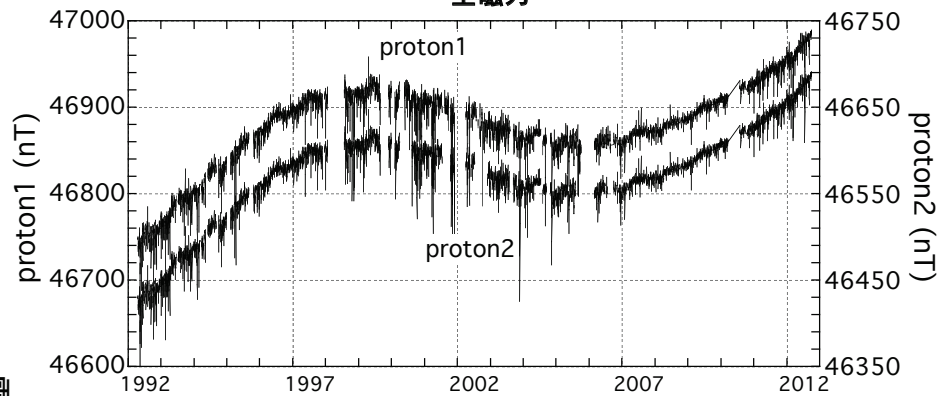


全磁力差（単純差）

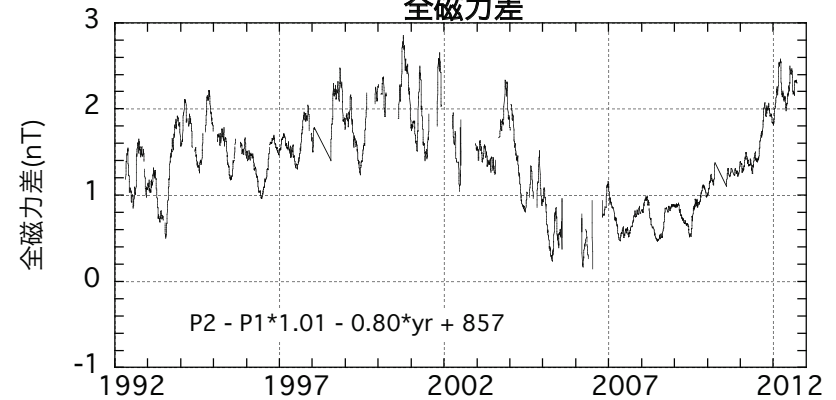


単純差では約0.8nT/yrの増加傾向が見られる。さらに両地点には1度05分の伏角の違いがあり、最近の九州地方の地磁気永年変化の影響を受けている。

全磁力



全磁力差



全磁力を30日間の移動平均値を用いて、ばらつきが最小になるように係数を決めて差を求めた。また0.8nT/yrの経年変化を差し引いた。